

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970500264		
法人名	医療法人 仁照会		
事業所名	グループホーム とさの森		
所在地	高知県土佐市高岡町甲931-5		
自己評価作成日	平成30年9月20日	評価結果 市町村受理日	平成31年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道から少し奥に入った場所にある、古民家が事業所です。国道より一歩入っただけで、とても静かな環境にあります。古い建物ですが、狭いながらも楽しい我が家です。近隣にはタクシー会社、スーパーがあり、毎日のようにコーヒー用の水を頂きに出かけます。

事業所の取り組みは、「まずは歩こう、外に出よう」ということで、夏場の暑い時期や雨の日を除いて、町の大量家電販売店まで歩いて建物を回って帰って来る散歩コースをとっています。利用者の皆さんは、散歩をととても喜ばれ、職員より足がしっかりしているのでは、と思えるほどです。

小さいながら我が家の畑では、玉ねぎやトマト、さつま芋などの野菜を作ったり、落が生えてくれば皆で皮を剥いて煮ものにするなど、季節感を味わっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kihontrue&JigyosyoCd=3970500264-00&PrefCd=38&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成30年10月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

庭付き2階建て住宅の事業所は日当たりも良く、庭で野菜や花を植えるなど、家庭的な雰囲気がある。近隣にはスーパーやタクシー会社、避難所となる大規模イベント施設などがあり、交通量は多いが歩道幅も広く、利用者全員で転倒予防に散歩に取り組み、ここ数年転倒事故は起きていない。

また、いつまでも食事を楽しむことを目標としており、食前には唾液を出しやすくする「口の体操」をして、手作りの食事を楽しんでいる。利用者に声をかけて調理方法を一緒に考えたり、できる範囲で準備も手伝ってもらったりと、職員と利用者の信頼関係を築く努力がみられる。

消防署立会で年2回防災訓練を行い、地域住民の参加もある。夜間を想定して避難所まで利用者と共に歩くなど、地域と職員が協力して、利用者の日頃の安全・安心につなげている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>母体法人の運営理念と事業所運営理念を誰が見ても分る所に貼り、事業所理念は毎朝職員と利用者と一緒に唱和し、意識の統一を図って実践につなげている。</p>	<p>事業所理念は「いのちきらきら からだいきいき ころのびのび」として、毎朝ラジオ体操の後に職員と利用者が一緒に唱和している。利用者全員の散歩による体力づくり等、事業所全体で理念の実践に努めている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町内会に加入し 事業所行事には地域住民の参加があり、土佐市開催の敬老会の案内状をもらっており、小学校や保育園の子供たちからは、運動会の案内状が送られてくる。</p>	<p>町内会に加入し、市主催の敬老会や地域の祭りや保育所、小学校の運動会等の行事の案内がある。庭の作物を近所におすそ分けし、防災訓練時には近所から参加してくれる。買い物や散歩時には、声かけもある。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>家族には前もって郵送で知らせたり、電話をして確認を取り、出来る限り参加を呼び掛けている 地域住人や民生委員には前もって案内状を配り、参加してもらえるようにしている。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では事業所での取り組み等を報告し、参加者の中から出た意見は次回に対応結果を報告して、参加者からの意見や助言をサービスの向上に活かしている。</p>	<p>利用者全員と家族、地域代表、市介護保険課担当者が参加し、事業所の取り組み報告を行っている。出された意見や要望は詳細に記録し、次回運営推進会議や事業所内で閲覧している。家族への議事録送付がない。</p>	<p>議事録を家族に送付し、家族の事業所理解と協力促進を図ることを期待したい。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターの紹介で入所した利用者の面会に担当者が来てくれ、事業所で困っていること等相談して助言を得たり、市の認知症実践塾に参加して、助言を得ながら連携を図っている。</p>	<p>市が開催している「認知症実践塾」や「身体拘束に関する研修会」に職員全員が交代で参加している。利用者の面会や事例検討にも市から参加がある等、協力関係が築かれている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>研修会参加の職員が月例会で報告し、再度勉強会を実施して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。リスクの高い利用者には一人ずつ職員が付いて対応をしている。家族にも相談し、協力を得ている。</p>	<p>市の身体拘束研修会に参加しており、身体拘束をしないケアを実践している。帰宅願望の強い利用者の原因を職員会で検討し、全員で見守りを行っている。外出傾向の利用者は家族にドライブに連れ出してもらうなど、一人ひとりの思いに対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場研修会を行ない、職員の意識を高めて虐待が見過ごされることがないように、職員全員が共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者研修会に参加し、必要と思われる利用者には積極的に活用してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアマネージャーを通じて、契約前から利用者、家族と密に連絡を取り、不安や疑問点を話し合っ、納得を得たうえで契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の事業所便りは玄関にも貼って利用者の様子を知らせたり、運営推進会議では参加家族から要望などを聞くようにしている。家族会で話したことは、家族の意見も取り入れて運営に反映している。	家族の意見を大切に、面会時にはゆっくりと家族の意見や思いを聞くようにしている。運営推進会議では家族の意見を聞いているが、家族会に家族だけで話し合う場の設定がない。	職員が加わらない、家族だけで話し合える場を設け、家族会としての本音を運営面にも反映できる環境づくりを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の月例会で職員の意見を聞き、管理者は母体法人に職員の意見を伝達している。	毎月1回の月例会で職員の意見を聞く場があり、母体法人からも時々参加がある。職員からは、個々のケアの方法についての意見等があり、運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時には、職員一人ひとりの希望に沿った設定となるように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々に合った研修会に参加してもらい、後日研修内容を月例会で報告して情報共有している。月例会に参加出来なかった職員は、議事録を見てケアに活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の認知症実践塾に参加し、他の事業所の意見を聞き、同業者との交流を図っている。グループワークで話し合った事例を月例会で報告し、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用していたケアマネージャーから情報提供を受け、利用者、家族と何回も話し合い、今困っていることや、要望、意見を聞いて、安心した生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族と面会し、本人が一番必要としていることを話し合い、家族が安心してサービスが利用出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に家族、本人が必要としていることを話し合い、意向に沿ったケアプランを作成して、安心してサービスが利用できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長い人生経験や生活歴、家族の協力を得て知り得た情報をもとに、生活を共にする者同士、信頼関係が築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	職員は、月に一度は家族と連絡をとり、利用者に関する報告をして、家族との信頼関係をつくるとともに、共に支援していく関係を築いている。		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	散歩やスーパーへの買物の際に、知人から声をかけられたり、事業所に尋ねてきてくれたりするほか、地域の敬老会等に参加して、馴染みの関係が途切れないようにしている。	遠方から入所の利用者も新しい馴染みの関係ができており、買い物中や散歩中に声をかけてくれる人がいる。馴染みの美容院にも家族と通う等、馴染みの人と場の関係づくりができています。	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	気の合った利用者同士交流がしやすいよう、近い席に座るようにしたり、孤立している利用者が見られた場合には職員が中に入って間を取り持ち、安心した生活が出来るように考慮している。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	退所後も事業所行事等の案内を出したり、季節ごとに手紙を出して、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	本人の生活や会話の中から思いや意向を把握して、フェイスシートに記録を残すことにより情報共有し、本人本位のケアを検討している。	買物や散歩時に一対一でゆっくり話ができるので、職員は利用者の思いや意向を聞いている。フェイスシートには利用者の思いの変化等、追加の情報も記入して、職員全員で共有している。	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	入所前からサービスを提供しているケアマネジャーや、医療機関からサービスの利用方法や生活環境の経緯を聞き、把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックから心身の状態を把握しながら、レクリエーションや作業などへの参加を促し、その人らしく暮らしてもらえるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でカンファレンスを行ない、本人、家族の意見や要望も聞いて、介護計画書を作成している。本人の状態が変化したときには、その都度見直している。	担当職員と計画担当者が利用者、家族に思いや要望等を聞き、介護計画を策定している。さらに、管理者も加わって職員会で検討し、必要に応じて追加変更をしている。3ヶ月に一度見直しを行うほか、本人の状態に変化があれば、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントする中から日常生活の本人の様子や気づき記録を残し、職員で共有しながら、本人や家族の希望や要望を取り入れながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への定期受診で家族が同行できない場合には事業所に対応する等、利用者、家族からの要望は可能なものはすべて対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前食堂に勤めていた利用者は、職員と一緒に食事を作ったり、味付けをしたり、洋裁をしていた利用者はズボンのすそ上げなどに参加してもらう等、楽しみながら生活が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が希望する医療機関を受診してもらっている。通院時家族が同行の際には受診記録を渡し、結果は家族から報告を受けている。個々の日誌に記録保管して、職員間で共有している。	7名の利用者が協力医をかかりつけ医として、週1回の訪問診療を受けている。その他の受診は家族が受診記録を持って通院介助し、診察結果は家族の報告を聞いて情報共有している。家族の同行が困難な場合には、職員が代わって同行し、受診結果を家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を受け、利用者個々の日常生活の報告や体調の状態を相談しながら、適切な助言を得ている。24時間いつでも相談ができる体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、家族と一緒に医師から説明を受け、その後は関係者の方と相談や情報交換をしながら、早期に退院出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化、看取りについての対応を説明し、重度化の際には時々において家族と話し合い、関係者と共にチームでの支援に取り組んでいる。	重度化の指針を入所時に説明している。看取り対応が必要と判断されると協力医に連絡し、医療連携を密にして、家族と話し合いながら対応している。今までに看取り実績が10数例ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習に全職員が参加し、心肺蘇生やAEDを使つての訓練を行つて対応が出来るように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火、防災訓練を年2回行い、消防署に立ち会ってもらいアドバイスを得ている 運営推進会議の前に家族や地域住民に参加してもらい、協力体制を築いている。	消防署に出動してもらつ火災・災害訓練を年2回、運営推進会議の前に行っている。その内1回は夜間を想定した抜き打ち訓練で、近くの避難所まで全員が移動訓練をした。地域住民も参加協力してくれている。備蓄は水、食料、毛布など3日分を保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの尊厳を尊重し、個人情報保護を保護して、本人の自尊心を傷つけないよう事業所研修会で徹底し、適切な対応をしている。	権利擁護の研修会に管理者が参加し、職員に伝達している。入浴時や排泄時の対応は、職員間で特に申し合わせをしている。衣類が汚れた際には速やかに衣類交換ができるように予め衣類をセットし、さり気なくトイレ誘導をするなどを徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所前の情報提供をもとに、その人らしい希望など取り入れ、日常生活の中で思いや希望が表現できない利用者は、表情などで注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で、利用者一人ひとりを観察しながら、その時々々の状態を見守りながら、本人に合わせて、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの好みを把握し、日常生活の中で過ごしやすく、動きやすいようにして、本人が望むよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と一緒に作り、盛り付けなども一緒に行ない、後片付けや食器洗いもしてもらっている。	食材は母体法人6事業所が一括購入し、週2回数日分の食材料が届く。材料を見て利用者に声をかけ、調理の準備や片づけなどできることを一緒にしてもらっている。食前には、唾液が出て飲み込みやすくなる「口の体操」をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーは定期的に母体法人栄養士に報告し、日々の状態を把握して調整している。個々の食器や食事量は体調に応じて変更し、食事や水分は日誌に記載している。水分摂取が少ない利用者は、気分を変えて工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は一人ひとりの口腔ケアを行っている。入歯は夜間洗浄剤で洗浄し、朝本人に渡している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレに時間誘導している。夏場は暑いので布パンツに変更するなど、自立に向けた支援を行っている。	利用者個々の排泄パターンに応じてトイレ誘導の声掛けをしている。夜間は紙パンツとパッドを使用しており、起床時には全員温布で清拭をしている。夜間はポータブルトイレ使用者が1名で、その他の利用者は注意しながらトイレ誘導している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	残食をなくし、食物繊維の多い食材を使用して、個々の便の状態を把握している。朝夕の適度な運動で身体を動かし、水分補給が出来るようにして、便秘防止に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その時々利用者の希望に沿って入浴支援をしている。毎朝起床時には陰部の清拭を行い、散歩後にはシャワー浴で汗を流している。入浴拒否の場合には、職員が交代で声かけの工夫を行い、入浴につなげている。	利用者の希望に合わせて、全員週2～3回の入浴となっている。ゆったり長時間入浴利用者や、熱めが好きだったり、一人ひとりの好みに合わせている。夏場は散歩後に声かけをして、シャワー浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりに合った適度な運動や散歩、外出等で活動の場を広げ、適度な汗をかけた後はシャワー浴をし、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報をまとめ、目的や用途などが何時でも確認できるようにしている。変化があるときはすぐ看護師や医師に相談し、指示を受け直ぐ対応が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦等から本人に合った役割を見つけ、自宅で過ごしていたことを思い出しながら過ごせるよう、支援している。買い物や外食などを取り入れ、気分転換を図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は毎日国道を30分歩いたり、家族と美容院に行ったり、敬老会や保育園、小学校の運動会も参加出来るように支援している。	天気が良い日は全員が30分程の散歩に出かけており、最近は転倒する利用者もいない。夕方落ち着かない利用者には、家族の協力でドライブに誘ってもらったりしている。事業所も食材料の運搬を利用して、ドライブに誘うことがある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を管理することで、希望があれば家族に報告し、職員が買い物に同行する支援を行っている。領収書で家族が確認出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から電話があるときは、話しが出来るように支援している。手紙のやりとりは無いが、年末の事業所便りの中に挨拶を書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には季節の花を植えたり、植物を飾ったりしている。リビングには利用者が散歩で取ってきた食物を押し花にして額に入れたり、折り鶴を飾ったりして、居心地よく過せる工夫をしている。	玄関からすぐの共用空間には、全員がテレビを見られるようにソファを置き、日当たりもよく、庭で作った花や作物が見える。誕生日会やイベントで撮った写真が飾られ、廊下には利用者が作った折り鶴等の作品を展示して、温かい雰囲気の間づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室で過ごす時間が多いので、自分の写真や、利用者同士一緒に活動してきた写真を見ながら、好きな場所で過ごすことが出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には自宅で使っていた馴染みの物を持って来てもらい、安心して暮らせるようにしている。気の合った利用者同士イスを隣にしたり、2、3人で過ごせるソファを設置している。	居室は明るく、ベッドの他にダンスやソファなど、使い慣れた物を持参し、写真や小物などを置いて、本人が居心地よく過ごせるようにしている。室内はフローリングと畳の部屋があり、毎日職員と一緒に掃除や片づけをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	庭から玄関、食堂の横が狭いのでスロープと手摺を設置し、出来るだけ安全に自立した生活が送れるように工夫している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				